

## 判官鼻眞(はんがんびいき)はどこへ行った?

教育相談専門員 沼波かおり

判官(ほうがんとも言う)とは、九郎判官義経(くろうほうがんよしつね)のこと。源義経の別称である。鎌倉幕府を開いたことで有名な、源頼朝の弟だ。父は同じ源義朝だが、腹違い(母親が違う)ということで幼少期から別々に育ったこの兄弟は、長じて感動の再会を果たす。しかし、兄の頼朝は知力武力に優れた弟に嫉妬し、次第に疎ましく思うようになっていく。共に「打倒平氏」を目標に力を合わせて闘うが、やがて兄の矛先は弟に向かい、義経は奥州(東北)の平泉まで追われていくことになる。そこで身を寄せた奥州藤原氏の裏切りに合い、非業の死を遂げた、といわれている。古来、歌舞伎や芝居の格好の題材となり、庶民にも親しまれたストーリーである。



そんな中で、権力をもつ強い立場にあるもの(=頼朝)よりも、弱い立場にあるもの(=義経)に同情し応援するという「判官鼻眞」という考え方は、日本人の一つの心の在り方として広まっていった。赤穂浪士の討ち入りもその例だ。江戸城松の廊下で刃傷沙汰(にんじょうざた)に及んだ浅野内匠頭(あさのたくみのかみ)は、被害者である吉良上野介(きらこうずけのすけ)よりもなぜか多くの同情を集めた。今でも年末になると、どこかのTV局で「忠臣蔵」としてドラマ化される。

最近気になることがある。例えば、地震で被災した人や支援者に対し匿名で批判する。彼氏(彼女)とうまくいっていることを、これ見よがしにSNSにUPする。SNSに悪口を書かれているとわざわざ当人に知らせる。集団で、弱っている子、一人でいる子をからかう・・・etc。さらにまた、「不寛容(ふかんよう=心がせまく、人の言動を受け入れず、他人の罪や欠点を厳しくとがめだてする)」という言葉も使われるようになってきた。

ほんのちょっとした「やさしい気もち」がもてるかどうか、にぎやかな教室の中にも、「今つらい状況の誰かがいる」と気づける自分がいるかどうか・・・大人でも出来ない人はいっぱいいるが、どうか「そちら側」の人にはならないで。

### ☆ カウンセラーの先生方が来校されます ☆

本校には次のカウンセラーの先生方が毎月来校されます。「辛いけれど、どうしていいかわからない」という人、「よく眠れない」「食欲がない」「体調が良くない」などの症状がある人は、ぜひ先生方に相談してみてください。秘密は守られますので安心してください。

《カウンセラーの先生と10月の相談日》

- 沼波 かおり先生 (本校教育相談専門員)  
毎週火曜日、木曜日 午後1時～6時40分
- 堀 智哉先生 (各務原病院 臨床心理士)  
毎週月曜日、金曜日 午後7時～9時
- 鷺見 栄子先生 (社会福祉士)  
10月7日(金)、14日(金)、28日(金)、午後2時～4時

☆ 生徒のみなさんへ…面談は予約制です。HR担任、教育相談係(教育相談室:本館3階)、養護教諭(保健室:本館1階)の先生のいずれかに申し込んでください。

★ 保護者の方へ…カウンセラーの先生との面談は、保護者の方のみでも受け付けます。お申し込みは、定時制教育相談係(長瀬・岩佐・服部)までお願いします。

電話番号は(058)275-7185です。どうぞお気軽に申し込んでください。